

1/20-26#8 王国の福音を宣べ伝え、諸国民を弟子とするCP1 私たちは、小羊の行く所へはどこへでも従って行き、人の住む全地に王国の福音を宣べ伝えて、王国の種、遺伝子を増殖させ発展させ、この時代を終結させる必要がありますマルコ

4:26 イエスはまた言われた、「神の王国はこのようなものである。ある人が地に種をまき」。FN 神聖な命の種は、奴隷-救い主の信者たちの中にまかれました。この種は、神の王国(奴隷-救い主の福音の結果と目標)と、この時代の召会が、命の事柄、神の命の事柄であることを示しています。この命は、芽を出し、成長し、実を实らせ、熟し、収穫に至らせます。神の王国と召会は、人の知恵と能力による命のない組織ではありません。A 神の王国はキリストご自身です。1 人性における三一の神は、神の王国の種、遺伝子であり、神の選ばれた民の中へとまかれています。それによって彼は彼らの中で成長し、彼らの中で生き、彼らの内側から表現され、発展して神の支配する領域となります。

4:28 「地は自ずから実を結ぶのであり、初めに葉、次に穂、次に穂の中に穀粒が満ちる。FN すなわち、良い地。それは、神が創造された良い心を象徴しており、神の神聖な命が人の中で成長するためです。そのような良い心は、内にまかれた神聖な命の種と協力して働き、神の表現のために、種を自然に成長させ、実を結ばせます。ここの言葉は私たちに、この自然現象を信じる信仰を持てるようにします。29 しかし実が熟すると、直ちに人はかまを入れる。刈り入れ時が来たからである。

3 神の目標は、神の王国の満ち満ちた発展です：a 福音書には、王国の種、遺伝子をまくことがあります。b 使徒行伝には、このまくことの増殖と拡大があります。それは、王国の種、遺伝子を受け入れた、数千の種まく者たちによります。このすばらしい方は、私たちの神、主、救い主、贖い主、主人、命です。日ごとに王国の種は、私たちの内側で成長し発展しています。... 私たちは多くの事を忘れるかもしれませんが、遺伝子が私たちの内側にあることを、みな覚えておくべきです。

証 2024年年末～2025年の新年にかけて、青少年が召会の中で大いに機能したので、年末年始とても祝福されました。彼らが冬休みに入ってすぐに1泊2日の合宿を行い、姉妹集会やDaytimeレーニングに大人たちと一緒に参加しました。また六甲山荘で12/31～1/1に日の出を見る合宿、1/3～4の新年特別集会にも多くの青少年が参加し、集会では伴奏奉仕や分け与えにも率先してあずかりました。若者が霊を活用して詩歌を賛美し、神の言葉を語り、自分の分に応じて召会の中

で機能する姿に私も大いに励まされ、霊が燃やされました。また、2025年最初の王子公園で行った地区集会では、バイタルな生活の7つの項目について青少年に交わりました。青少年は特に、人と接触することにおいて、名前を挙げて、海辺の兄弟姉妹や友人を訪問することを宣言しました。その姿を通して私は、「王国の種は良き地である彼らの心にまかれて、順調に彼らの心の中で神の命が成長している」と感じました。召会の将来は今の青少年たちにかかっています。これからも彼らと組み合わされて機能することを学び、神聖な神の王国の領域を拡大していきたいです。

CP2IB 主イエスは、彼の肉体と成った時期における彼の天的王国を確立するための王の務めにおいて、ご自身を医者、牧者、収穫物の主と考えました。マタイ9:12 ... 丈夫な人には医者はいない。いるのは病んでいる人である。FN ここの主の言葉は、自分を義とするパリサイ人が、医者としての主が自分たちの必要であったのを認識していなかったことを暗示しています。彼らは自分を強いと見なしました。彼らは自分を義とすることによって盲目にされ、自分が病んでいたことが分かりませんでした。36 そして彼は群衆を見て、彼らに深く同情された。なぜなら、彼らは牧者のいない羊のように、苦しめられ、捨てられていたからである。FN これは、天の王が、イスラエル人を羊、ご自身を牧者と考えておられたことを示します。キリストが最初ユダヤ人に来られた時、彼らはらい病の者、中風の者、悪鬼にとりつかれた者、あらゆる状態のあわれな者でした。なぜなら、彼らを顧みる牧者がいなかったからです。38 だから、収穫物の主が、彼の収穫物のために働き人をせき立てて送り出してくださるように、彼に祈り求めなさい。FN 神は彼のエコノミーにおいて、達成すべき計画を持っておられます。次に、彼の民がそのために神に祈り求め、祈る必要があります。主は彼らの祈りに答えて、ご計画に関して彼らが祈った事を達成されます。C 神聖な三一の中心である御子は、彼の肉体と成った時期において彼の天的王国を確立するための王の務めにおいて、完全にご自身によってではなく、ご自身のためでもなく、ご自身に対してでもありませんでした。彼が行なったことは何であれ、神の霊によってであり、父なる神の王国のためでした：マタイ12:28 しかし、私が神の霊によって悪鬼どもを追い出しているのであれば、神の王国はあなたがたに臨んでいるのである。1 神聖な組み合わせを伴う神聖な三一のこの行動は、神聖な三一における調和、麗しさ、卓越性を見せています。そして、かしらが彼のからだの肢体である私たちの組み合わせのために打ち立

てた、卓越した美しい模範です。今日、召会生活の中で、キリストのからだ十分に建造されていないのは、正常な組み合わせに欠けているからです。主は多くの肢体で構成されたからだを生み出されました。ですから、すべての肢体は彼から学ぶべきです。彼は父なる神のために、神の霊によって働いておられました。彼は決してご自身によって、あるいはご自身のために何もされませんでした。

CP3ID この時代が終わる前に、王国の福音は、すべての民に対する証しのために、人の住む全地に宣べ伝えられます。この宣べ伝えは、啓示録6:1~2における第一の封印の白い馬で表徴され、この時代の満了のしるしとなります:**マタイ24:14** **そしてこの王国の福音は、すべての民に対する証しのために、人の住む全地に宣べ伝えられる。それから終わりが来る。****FN**王国の福音は、恵みの福音を含んでおり、それは人々を神の救いにもたらすだけでなく、天の王国へもたらします。恵みの福音は、罪の赦し、神の贖い、永遠の命を強調しますが、王国の福音は、神の天的支配と主の権威を強調します。この王国の福音は、この時代の終わりが来る前、すべての民に対する証しのために、全地に宣べ伝えられるでしょう。**啓6:2** **そして見ると、見よ、白い馬があり、それに乗っている者は弓を持っていた。そして冠が彼に与えられた。彼は出て行って勝利を得た。そして、さらに勝利を得る。****FN**歴史の事実によれば、第一の馬、白い馬の騎手は、福音であるに違いありません。ある人の解釈のように、キリストあるいは反キリストではありません。キリストの昇天の直後、これら四つのもの一福音、戦争、飢きん、死は、四頭の馬に乗った騎手のように競争を始めました。それはキリストの再来まで続きます。

私たちはみな、実を結ばなければなりません。私たちは、これは聖書的であると承認しながらも、実を結んでいないかもしれませぬ。これは、白い馬に乗っていないことを意味します。福音を宣べ伝えているなら、私たちの関心は神の王国にあります。今日、この地上における私たちの関心は何でしょうか？ 私たちは労苦して、人を救いにもたらし、神の王国のために、キリストのからだを建造する者であるべきです。

II **天の王は彼の権威を伴って彼の弟子たちを遣わし、すべての諸国民を弟子とし、彼らを王国の民とならせ、彼の王国、今日の地上における召会を設立させます****マタイ28:19** **だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして、20 私があなたがたに命じておいたことを、すべて守るように教えなさい。見よ、私はこの時代の満了まで、日々あなたがたと共にいる。**

証 1986~1988年、私は台湾全時間訓練に参加して、「マタイ24:14のすべての民に対する王国の福音の宣べ伝えが、主の再来の最も強いしるしである」と何度も聞きました。日本にある地方召会の私たちは、必ず王国の福音を日本に住むすべての人に伝えなければなりません。私はこのビジョンを見て、大変印象付けられました。

1992年4月から神戸で、3人で召会生活を始めた時から、福音を伝えることを重視してきました。日本では王国の福音を伝えて、実を結ぶことはそんなに容易ではないので、失望する状況に何度も直面しました。しかし、その都度、主の憐みのゆえに次のように祈りました、「おお主イエスよ、私はあなたを愛し、あなたの出現を慕います。そうであれば、私は王国の福音を神戸市に住むすべての人に伝えなければなりません。そうしなければ私は矛盾した人になってしまいます。**マタイ24:14**の『そしてこの王国の福音は、すべての民に対する証しのために、人の住む全地に宣べ伝えられる。それから終わりが来る』を私の生活に適用します。私はどんなに失望しても、どんなに弱くなっても、なおも立ち上がり、福音を伝えなければなりません。そうしなければ、私は主の出現を遅らせている人になってしまいます。主よ、私を憐れんでください。私は何が何でも、その様な人になりたくありません」。私はこのような信仰の祈りによって、天のビジョンと現実の乖離を埋めることができました。また、別の時には次のように祈りました、「主イエスよ、私は仕事が順調な時も、あるいは上手くいってない時も、どんな時も、王国の福音を伝え続けます。恵みの福音は既に英国により全地に伝えられました。しかし、神のエコミーの観点からの、王国の福音、高い福音は、日本では未だ、ほとんど伝えられていません。これが日本の諸地方召会の責務です。このような極めて重要な働きが私たちに託されていることを感謝します。私はあなたを愛し、あなたの出現を慕うので、王国の福音を兄弟姉妹と共に毎週伝えます。アーメン!」。私がこのように祈る時、私の内なる人はいつも増強されました。このようなビジョンと現実の乖離を埋めるために、私は正直に霊と真実をもって主に向かって叫ぶことが重要であると気付きました。

このような祈りは、召会生活のリーダーシップに必要なだけでなく、日常生活における真理と現実の乖離を埋めるためにも極めて有効です。例えば未信者の家族や親せきがいて、主の名を呼んだり祈ったり賛美したりすることを遠慮してしまい、霊から魂に引きずり降ろされてしまいました。このような時、乖離を埋める祈りを主の御前で捧げれば、主は次の機会の時に、知恵、力、大胆さを与えてくださいます。